

夢

経営情報学部3年 高橋 奈央

『よく、“夢は願ってあれば叶う”とか“思い続けてればきっと叶う”とか言うけれど、私個人としては、人にそんな事をとても言えない。(中略)でも、叶った人がいないわけではない。だから叶う事もあるかもしれないのだ。』さくらももこの著書『ひとりずもう』のあとがきの最初の一節。私は、この言葉が好きだ。この世界には、夢を叶えた人の体験談が多く溢れている。テレビやインターネットなど、画面を通して私たちの眼に入るのは、成功者ばかりだ。それを見ているとなんだか、夢なんてものは願ってあればいつか叶うものなんじゃないかと錯覚しそうになる。でも、実際は違う。

高校生の時、私にはある夢があった。その夢を叶えるために数々の行動を起こした。だが、結局その夢を叶えることはできなかった。努力もした。人がやらないようなことにも挑戦した。時には某イベントで「がむしゃらに努力する姿勢に胸を打たれる」と特別賞をいただいた。それでも、夢は叶わなかった。特別賞の特典も、なかったことになった。夢が破れてから一年半ほど、私はずっと失意の中にいた。夢が叶った人の姿や体験談が私の心を締め付け続けた。そんな時、『ひとりずもう』のあとがきを思い出した。ハッとした。願っても、努力しても叶うわけじゃない。叶った人がいるというだけで、誰も夢は必ず叶うなんて言えないのだ。

ここまで読んだあなたは、「夢が必ず叶うわけじゃないなら、夢を追っても無駄だ」と感じたかもしれない。でも、安心してほしい。実は、夢を追った時間は全く無駄にならないのだ。私は夢のために、延々と画像の加工を続けていた。おかげでポスターを簡単に作成できるようになり、多摩祭で大いに役に立った。夢のため、自分の強み弱みをいつも正しく把握する必要があった。その甲斐あって、自分を客観視するスキルが身に付き、自分に合ったゼミを見つけることができた。お金や時間は使えば使うほどなくなってしまう。けれど、技術は決して

なくなる。そして、夢を追う過程で、頑張るほどに身に付いてくる。例えばそれがドリブルを続けるための体の使い方もかもしれないし、楽譜をすぐに暗譜する方法かもしれない。夢が破れた直後は、役に立たない無駄な技術だと思うかもしれないが、時間が経ったら振り返ってみてほしい。夢を追った分だけ、あなたは力を身に付けている。だから、安心して夢を追ってほしい。

夢は願うだけでは叶わない。ましてや、努力しても叶うわけじゃない。でも、夢を追いかけて身についた技術や経験は必ずどこかであなたを助けてくれる。心の底から叶えたいと思える、あなただけの夢が見つかりますように。



済州平和フォーラムでの質疑応答の様子



「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭でのプレゼンの様子



水の都大阪経済ツアー

ゼミ活動から得たこと

グローバルスタディーズ学部 4年 片山 美紅

私は、昨年度、ゼミ活動で、訪日外国人観光客を対象とした藤沢市のサイクリングコースを作成しました。藤沢市観光協会から委託を受け、学生目線で藤沢市の魅力を発見し、外国人観光客に伝えるプロジェクトでした。しかし、藤沢市やサイクリングに関する知識がなかった私は、最後までやり遂げることができるのか不安が大きかったです。

そこでまずは、サイクリング・ツーリズムとは具体的にどのようなものなのか、コースにはどのような施設や設備があるのかを、書籍や関連資料をもとに基本的知識を得るところから始め、奥が深いことを知りました。

また、実習を行うにあたり、Google マップなどで、コースに取り入れたい飲食店やルートの構成を考えました。外国人に受け入れられる藤沢の新たな観光資源を見つけることは、この活動を通して一番難しかった点でした。そのため、外国人が日本に来て何を体験したいのか、外国人が藤沢に抱くイメージを調べました。藤沢だからできる体験に重点を置き、私たちは、藤沢市が映画やアニメの撮影地に選出されている点と、聖地巡礼そのものが注目を集めている点から、アニメ「青春ブタ野郎」の聖地をコース内に入れました。藤沢駅をスタートし、七里ヶ浜駅を目指す、川と海沿いを走るコースです。また、飲食店選びには、「和食を楽しめる・ゆっくり食べられる・テイクアウトができる」という私たちなりの条件を付け、江ノ電が見える定食屋、手軽に食べられるおにぎり店、コースを締めくくるカフェ、こだわりを持って3店舗を提案しました。

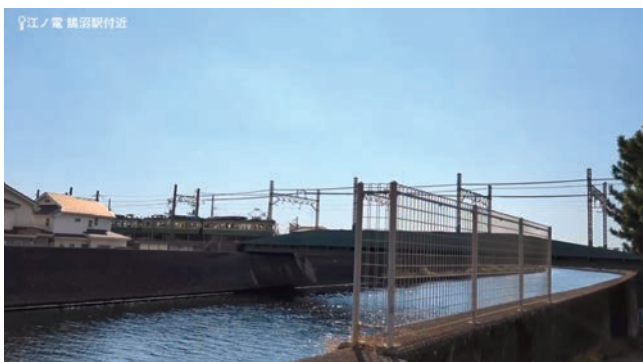
フィールドワークで実際にコースを走ってみると、川から海の匂いに変化する瞬間を体験することができたり、ギーギーとなる江ノ電を間近で見ることでできるスポットを発見したり、地図上では知り得ない情報を獲得することができました。また、聖地はアニメと全く同様のものが目の前に広がっていました。PRの旗などもいくつか立っていたので、よりアニメの聖地巡礼を楽しむことができるコースになり、現地に行って、自ら体験することで、新たに魅力を発見し伝えることができると学びました。

私は、旅行先でサイクリングを楽しむ、自転車に乗るという考えがありませんでした。しかし、身近にある藤沢市をサイクリングしただけでも、今まで知らなかった道やお店に出会うことができました。検索すると出てくるおすすめスポットではなく、もっと地元住民に近くディープな体験を、サイクリングを通して経験することができると感じました。

この活動で、当たり前だと思っている景色や考え方が、すべての人に当てはまるわけではないことに改めて気付かされました。社会人になると、年齢性別関係なく今まで以上に多くの人と関わる機会が増えると思います。これ以外正解はないと自身の考えを押し付けるのではなく、視野を広く持ち、柔軟な姿勢で周りの人と接していきたいです。



コース詳細



間近で見れる江ノ電



ゆっくりできる定食屋